

GPS 安全性要約書

この GPS 安全性要約書は、化学物質を製造する企業の社会的責務として、化学産業界のグローバル製品戦略（Global Product Strategy :GPS）に基づいて当社が製造する化学製品のリスク評価結果に関する情報の概要を一般社会に提供するものです。

この文書は、ヒトの健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細等の専門的な情報を提供するものではありません。また、安全性データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(REACH CSR)などのリスク評価書に代わる文書として作成されたものではありません。記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。

物質名（SUBSTANCE NAME）

酢酸ビニル（Vinyl Acetate, CAS No. 108-05-4）

物質の概要（GENERAL STATEMENT）

酢酸ビニルは、甘い香り、かすかな刺激臭の無色の液体である。ポリビニルアルコール、酢酸ビニル共重合樹脂などの原料に使用されている。

引火性の高い液体である。吸入すると有害、強い眼刺激、アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ、遺伝性疾患のおそれの疑い、発がんのおそれの疑い、呼吸器への刺激のおそれ、長期にわたる又は反復ばく露による臓器(呼吸器)の障害のおそれがある。生分解しやすく、生物蓄積性が低いと推測される。水生生物に毒性がある。

管理されたばく露のある閉鎖系プロセスでの製造、ばく露の機会のあるその他のプロセスでの各作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がある。専用設備での移し替え作業において、蒸気等の発生、流出、装置の清掃等に伴い、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がある。消費者用途はないため、消費者へのばく露の可能性は極めて低い。

製造、合成、本製品を含有した塗料や接着剤使用の作業の際は、適切な保護具を着用する。移し換えや塗布作業などばく露の可能性が高い作業では局所排気を適用する。米国産業衛生専門家会議（ACGIH）による作業環境許容濃度の勧告値 10 ppm(TWA-時間加重平均値)を下回る環境濃度となるよう管理・制御する。作業責任者は、作業員に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法等の教育をする。当該物質使用時には飲食・喫煙を避ける。適切な排水処理施設および排ガス処理施設を設置する。漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取り扱いに注意を払う。

化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

項目	内容
一般名	酢酸ビニル
商品名	酢酸ビニル
化学名	Vinyl Acetate (IUPAC名: Vinyl Acetate)
CAS番号	108-05-4
その他の番号	官報公示整理番号(化審法, 安衛法)(2)-728 EC番号 203-545-4
分子式	C ₄ H ₆ O ₂
構造式	$\text{H}_3\text{C}-\overset{\text{O}}{\parallel}{\text{C}}-\text{O}-\text{CH}=\text{CH}_2$
その他の情報	特になし

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

当社製品の主な用途	ポリビニルアルコール、酢酸ビニル共重合樹脂 及び ポリ酢酸ビニル系エマルションなど
-----------	--

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

外観(物理的状态)	液体
色	無色
臭気	甘い香り、かすかな刺激臭
比重(相対密度)	0.934 (20/20 °C)
融点/沸点	-100.2 °C / 72.7 °C
引火点	-8 °C (タグ密閉式)
燃焼または 爆発範囲	2.6~13.4 vol% (空气中25°C)
自然発火温度	402 °C
蒸気圧	11.7 kPa (20°C)
分子量	86.09
水溶解性	(水に) 2.3 g/100 g (20°C)、(水を) 0.9 g/100 g (20°C)
オクタノール-水分配係数	LogKow : 0.73

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

影響評価	結果 (GHS ^{*1} 危険有害性分類)
急性毒性(経口)	区分外 ^{*2}
急性毒性(吸入-気体)	分類対象外 ^{*3}
(吸入-蒸気)	吸入すると有害 (区分 4)

(吸入-粉塵/ミスト)	分類できない ^{*4}
急性毒性(経皮)	区分外 ^{*2}
皮膚腐食性/刺激性	区分外 ^{*2}
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	強い眼刺激(区分 2A)
呼吸器感受性	分類できない ^{*4}
皮膚感受性	アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ(区分 1)
生殖細胞変異原性	遺伝性疾患のおそれの疑い(区分 2)
発がん性	発がんのおそれの疑い(区分 2)
生殖毒性	区分外 ^{*2}
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性、区分 3)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期又は反復ばく露による臓器(呼吸器)の障害のおそれ(区分 2)
吸引性呼吸器有害性備考	分類できない ^{*4}

^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals. 世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム

^{*2} 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合

^{*3} 分類対象外: GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないもの

^{*4} 分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

影響評価	結果(GHS危険有害性分類)
水生環境有害性(急性)	水生生物に毒性(区分2)
水生環境有害性(慢性)	区分外 ^{*2}
環境動態	結果
環境中の移行性	水系からの揮発性は低く、土壌への吸着性も高くないと推測される。
生分解性	生分解しやすい。
生物蓄積性	生物蓄積性が低いと推測される。
PBT/vPvBの結論	PBT、vPvBに非該当である。 PBT: 環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する vPvB: 環境中に非常に残留しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する

ばく露 (EXPOSURE)

詳細	No.	当社製品の主な用途におけるばく露の可能性
作業員ばく露	1-1	・管理されたばく露のある閉鎖系プロセスでの製造、ばく露の機会のあるその他のプロセスでの各作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がある。

専用設備での移し替え作業において、蒸気等の発生、流出、装置の清掃等に伴い、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。

消費者ばく露	2-1	・消費者用途はないため、消費者へのばく露の可能性は極めて低い。
環境ばく露	3-1	・製造工程から、主に大気及び水環境へ放出される可能性がある。 ・熱可塑性プラスチック製造におけるモノマーとして産業で使用され、主に大気及び水環境へ放出される可能性がある。
注意事項		・他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施してください。

推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

詳細	No.	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業員ばく露	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・製造、合成、本製品を含有した塗料や接着剤使用の作業の際は、適切な保護具を着用する。移し換えや塗布作業などばく露の可能性が高い作業では局所排気を適用する。 ・米国産業衛生専門家会議(ACGIH)による作業環境許容濃度の勧告値 10 ppm(TWA-時間加重平均値)を下回る環境濃度となるよう管理・制御する。 ・作業責任者は、作業員に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法等の教育をする。当該物質使用時には飲食・喫煙を避ける。
対消費者ばく露	2-1	なし
対環境ばく露	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な排水処理施設および排ガス処理施設を設置する。 ・漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取り扱いに注意を払う。
その他取扱注意事項		なし

(注)No.は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載している。

政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

評価書	レビュー状況
OECD 高生産量化学物質 (HPV)	http://esis.jrc.ec.europa.eu/doc/risk_assessment/REPORT/vinylacetatereport059.pdf
NITE 化学物質の初期リスク評価書	http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/data/pdf/risk/pdf_hyokasyo/102riskdoc.pdf
環境省 化学物質の環境リスク初期評価	http://www.env.go.jp/chemi/report/h15-01/pdf/chap01/03-3/02/06.pdf http://www.env.go.jp/chemi/report/h15-01/pdf/chap01/02-2/08.pdf
欧州 REACH 登録情報	http://apps.echa.europa.eu/registered/data/dossiers/DISS-9d9a90f3-faa1-6aae-e044-00144f67d249/DISS-9d9a90f3-faa1-6aae-e044-00144f67d249_DISS-9d9a90f3-faa1-6aae-e044-00144f67d249.html

法規制情報／ラベル情報 (REGULATORY INFORMATION / LABELLING INFORMATION)

主な法規制情報

法律	規制状況
国連分類	3
国連番号	1301
化学物質管理促進法	法第2条第2項、施行令第1条別表第1、第1種指定化学物質 酢酸ビニル(政令番号:134)
化学物質審査規制法	優先評価化学物質(No.28)
労働安全衛生法	施行令別表1-4 危険物・引火性の物 法第28条第3項指針公表化学物質(がん原性) 法第57条の2 施行令18条の2、別表第9名称等を通知すべき有害物(通知対象物、政令番号第180号)
消防法	法第2条危険物別表第4類引火性液体、第1石油類非水溶性液体 危険等級II(指定数量200L)
海洋汚染防止法	施行令別表第1有害液体物質(Y類物質) 施行令別表第1の4危険物
特定廃棄物輸出入規制法	法第2条第1項第1号イ/三省告示
航空法	施行規則第194条危険物告示別表第1引火性液体
船舶安全法	危規則第2、3条危険物告示別表第1引火性液体類
港則法	施行規則第12条危険物告示引火性液体類
毒物劇物取締法	対象物ではない
外国為替及び外国貿易管理法	輸入貿易管理令第4条第1項第2号(2号承認)(有機溶剤) 輸出貿易管理令別表第二(輸出の承認)(35の2(-))

ラベル情報

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- ・ 引火性の高い液体および蒸気
- ・ アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
- ・ 強い眼刺激
- ・ 吸入すると有害
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・ 発がんのおそれの疑い
- ・ 長期または反復ばく露による臓器(呼吸器)の障害のおそれ
- ・ 水生生物に毒性

注意書き

[安全対策]

- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

- ・ 熱／火花／裸火／高温のような着火源から遠ざけること。－禁煙。
- ・ 容器を密閉しておくこと。
- ・ 容器を接地すること／アースをとること。
- ・ 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器等を使用すること。
- ・ 火花を発生させない工具を使用すること。
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取扱い後は手をよく洗うこと。
- ・ 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急処置]

- ・ 皮膚についた場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・ 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
- ・ 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
- ・ 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
- ・ 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
- ・ 汚染された衣類をすべて脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
- ・ 火災の場合：消火するためにアルコフォーム(フツ素たんぱく泡)、粉末、二酸化炭素を使用すること。

[保管]

- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・ 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- ・ 施錠して保管すること。

[廃棄物]

- ・ 内容物や容器を、都道府県の許可を受けた廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。

連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名	日本合成化学工業株式会社
住所	大阪市北区小松原町2番4号大阪富国生命ビル
担当部門・担当者	基礎化学品営業本部
電話番号／FAX番号	06-7711-5430/06-7711-5452

発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版: 2015年 1月 9日発行

特記事項: なし